
9つの理を司る者

たかゆき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

9つの理を司る者

【Nコード】

N5247H

【作者名】

たかゆき

【あらすじ】

毎日を平凡に過ごしていた主人公ロスベル・レギスト。しかし偶然に発生した学校の扉を見つける…。そしてロスベルの運命が動き始めるのだった…

1..9つの理を司る者

「今から4000年前、世界を巻き込む巨大な争いがありました。それはそれぞれを統治する精霊が対立しあいこの世界に大きな影響を与えました。その争いのことを我々人間は『精霊戦争』と呼んでいるわけです。ここは次のテストに出ますのでよく勉強しておく」と

「すかー…スコー…?」

「……またですか?起きなさい?」

「はっ、はいい!」

と授業中に起こされた少年の名はロスベル・レギストだ。

長い黒髪と全体的に黒をベースとした大人っぽい服を着ており、腰には取っ手がロスベル流にアレンジされたサーベルがある。

「貴方はいつもいつも寝てばかりで!…」

このクラスはいつも先生の怒鳴り声が聞こえるクラスというので有名で特に魔術科の先生がロスベルを叱るのはいつも光景だ。

「先生、もうチャイムなってますよ」

とやれやれと言ったかのようにロスベルが先生に言う。

「放課後、職員室に来るように!」ガラガラガラと教室の戸が閉まったのを確認すると、教室全体がホッ…となる。

「ロスベル…いい加減にしないよ?」とあきれながらロスベルに近づいて来たのは同じクラスのウィスペル・アリスだ。金髪のロングヘアが特徴であり、彼女はほぼ年中制服で過ごしている。

「なにがだよ?」

とまたうるさいのが来たぜ：と言わんばかりの顔でウイスペルに答える。

「ロスベル：。あなたこのままだと確実に留年よ。」

「大丈夫だって。今までもなんやかんやで進級できたしな。」と自慢気に話す。

「情けないなあ、おじさんとおばさん泣いてるわよ。絶対にね。うん間違いない。」

「うっせえよ。」

ロスベルの両親は四年前に何者かに殺されており、幼馴染みであるウイスペルの家に引き取られた。しかしウイスペルの両親は仕事先のガス爆発で死亡している。そして今は2人で暮らしているのだ。

「次は剣術の授業だぞ。ほらさっさと更衣室に行きやがれ。」

シッシと手を動かしながらウイスペルに言った。

「うるさいわねえ！わかってるわよ」

とウイスペルは更衣室に向かいロスベルも着替え始めた。「いつ見ても凄いやな：お前：。」

とロスベルがウイスペルの剣術着姿を眺める。

「うるさいわねえ！じろじろ見ないでよ！」

女子高生とは思えない程のペツタンコであるのがウイスペルの最大の悩みだ。

「はあ：。俺はお前を女としての魅力を感じない。」とがっかりしている。

「いいから、さっさと男子の列に並びなさいよ！」

て言い、ロスベルはヘイヘイといいがら並んだ。

ロスベルは剣術に関しては学校内でも評価は高くD～A判定、かなりその教科に長けている者は判定Sが貰える制度でありロスベルはSの判定を貰っている。魔術に関してはC、残りの教科はBだ。ちなみにウイスペルはすべてAである。ロスベルは剣術の授業はSな

ので授業を受けなくてもいいことになっており、いつも見学するのが決まりだ。だから学校の生徒はロスベルの剣術を見たこと内のが現状だ。

「次！ウイスペルⅡアーリス入れ！」

と先生に呼ばれウイスペルは指導を受ける。

（相変わらず乳揺れねえな）と思いながら見学していたのが今までのロスベルだった。しかし、最近気になる場所を見つけてしまいそれが気になって仕方がない毎日なのだ。ロスベルは剣術館内にある謎の扉を見つけたのだ。

たまたまクラスの奴らと一緒にバレエをしていてロスベルの強烈なアタックがもろい壁を破壊したために奇跡的に発見したのだ。そして扉に近づいたロスベルは扉に書かれた文字を発見したのだ。そこには『地を司る資格の者は更なる力を得られよう』と書かれていた。ロスベルは扉に触れようとしたら、扉から茶色い電撃みたいなものが発生し、結局扉を開けることが出来なかった。その日は先生達にバレないように隠して帰ったのだがやはり気になるのだった。

1..9つの理を司る者（後書き）

頑張って書くんで応援よろしくお願いします。

2..侵入開始(前書き)

扉の奥へススミダス…

2..侵入開始

「なあ、ウイスperlさんよ」とロスベルが恐る恐る尋ねる。

「何よ…、気持ち悪いわね…。」

とロスベルを気持ち悪いものを見るかのように凝視する。ウイスperlはひらめいたようにこう言った。

「はは…ん…なるほどねえ。お風呂上がりの私がそんなに色っぽかったと。そしてロスベルは私に見とれてしまいましたか。」
と上から目線でロスベルに言った。

「自信過剰なんだよ。板乳女さんよ。」

「なんですって!」

ヤバイ。話を変えなければとロスベルは思い

「あのさ『地』を象徴するものとか持ってるとき、『地』を持つ資格につながんのかな…?」

とウイスperlに聞く。

「そうよ、なるわよ。」

「例えば!？」

とロスベル。

「そうね…『地』を象徴するなら宝石のルビーがいいわ。つか、つい最近授業で習ったばかりだよ。」
とあきれながらウイスperlは答えた。

「どこにあるんだ!? そのルビーは」

「魔術科の準備室にきまってんじゃん…」
ウイスperlはため息をつく。

「サンキュー、ウイスperl」と目をキラキラさせながら言った。

「あんたまさか盗む気なんですよ!？」

ウイスperlが強気に聞いてくる。

「ち、違うよ? もう寝ないと明日が大変ですよ。ウイスperlさん。
ということでGood night!」

とロスベルは自分の部屋に逃げた。

「なんか怪しいわねえ…」

「はっ、俺様の時代が到来だな。」とロスベルは例の扉の前で言った。ロスベルは魔術科の準備室からなんやかんやで盗んできたルビーの指輪をつけ、扉の中心に捧げた。するとルビーは光始めたと同時に扉がゆっくりゆっくりと重苦しく開いていった。

「ほらあな、やっぱ俺には資格があるらしいぜ…」

ロスベルの腰にはしっかりとレイピアを装備し、軽装のソフトレザ―を装着している。

「んじゃ、早速捜査開始ってやつだな…」

高鳴る胸を抑え一歩ずつ進みだしたロスベル。しかしこの決断が後に彼の運命を狂わせることになったきつかけとなるのであった…

地の洞窟

ロスベルは群がるコウモリをレイピアを閃かせながらどんどん奥へ進んだ。

回りの壁にはすべて石を削って書かれている大昔の壁画が奥へと繋がっている。

壁画の内容は奥へいくほど酷いものを表現しているものとなり、最初らへんの人々と『地』の精霊と一緒に踊ったり歌ったりと楽しいなものを表した壁画から一変し、今ロスベルの右側には人々が『地』を司る魔物やモンスターに殺されたり、喰われて生首だけの壁画などさまざまな壁画があり、ロスベルは短時間でかなりの歴史を知ることが出来たのだった。

しかしロスベルも30分以上歩いておりロスベル自身も先はただの行き止まりでここは地精霊の遺跡の一つではないのか、という考えが強くなってきた。だが、歩き続けることさらに30分ロスベルはやっと扉の一番奥に着くことができた。その一番奥は広場となっており、右に石像が立っていた。広場のちょうど真ん中に石盤があった。ロスベルはそれを読み始めた。

「『地』の力を得たいのなら汝の力を我に示せ。『地』を象徴する石を捧げよ……。フーン……なるほどねえ。……ほらよっと！」
ロスベルはルビーを捧げた。すると人形のように停止していた石像が動き出したのだ。そして人形はこう呟いた。

（キサマノ：チカ：ラ……ヲ、：ワレニシメ……セ）

石像はロスベルに向かって叩き潰すかの如く襲いかかってきた！

「オイオイオイオイ！洒落になんねーぞっ！？」

ロスベルもレイピアを抜き体制を整える。ロスベルは石像と一定距離を保ちながら作戦を練る。

（とりあえず奴の動きは遅い。こちらから攻撃を仕掛けるチャンスはいくらでもある！こんなところで負けてたまるか！）

「うおおおおーっ！」

叫びながらロスベルは石像に突き攻撃を放つ！！

しかしレイピアは石像の胴体を貫かなかった。

「チッ！これならどうだ！？」ロスベルはレイピアを鞭のようにしならせて何度も何度も石像を突いた。徐々に石像の体が取れてきて、最終的にバラバラになった。

「ふう…なんとかなったな…」

ロスベルは安堵して地面に腰をおろした。しかしロスベルは感じたのだ。空気が変わっていくことに。ロスベルは息を殺しながら回りの様子をうかがう。すると唐突に

「人間がこのような場所に来るとは…何千年ぶりかのう…」

と老人らしき声が洞窟内に浪々と響いたのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5247h/>

9つの理を司る者

2011年1月9日02時28分発行